

策定検討委員会及び市民会議における意見要旨一覧

総合計画のあり方、策定の視点

は再掲

	総合計画策定検討委員会	総合計画市民会議
	<p>財政が非常に厳しい中で、もう総合計画といった言葉はやめにした方がよい。この計画を仮にネーミングをするとすれば、「川崎市再生計画」とか「ルネッサンス計画」とか、持続可能な計画づくりという具合にすべき。</p> <p>今後30年を考えると、3分の1の人が65歳以上になってくる。しかし川崎市は10年位はまだ人口が増えることが見込まれ、少子高齢社会を本格的に迎える前の、踊り場の10年になる。この時期が川崎市としても最後にいろいろやれる時期である。</p> <p>地域ごとの特性を踏まえた計画のつくり方といったことを考えるべき。</p> <p>市民の力を地域で活用していこうということが今回の計画のポイントの一つになるが、そこには当然限界も出てきて、それはまさに専門家、行政と市民の役割分担ということにつながっていく。困難な財政状況を背景に削るという発想だけではだめで、むしろ、市民のために持続する川崎を残すための発想の転換が必要。自信を持って今の時点を肯定するところから始めないと。</p> <p>対応すべき課題は、他都市と共通するものが多いのは当然だが、そうしたなかでも川崎らしい味付けが求められる。</p> <p>市民サービスの充実度合いが高ければ、市民生活が快適なのは間違いないが、財源との兼ね合いで重要性・緊急性などの視点で取捨選択をしていかなければならない。</p>	<p>パートナーシップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民と行政で連携して実行していく ・ 行政で行うべきものと、市民と協働で行っていくもの ・ 最終責任は誰がとるのかを明確にする必要 <p>行政圏を越えて、生活圏で近隣都市との関係があり、それを踏まえた川崎のまちづくり、自治を考える必要がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 川崎ワンセット主義は変える必要がある。周辺との関係を重視しなくてはいけない ・ 生活の連帯が必要 <p>(まちづくりについて)機能別に工業地、商業地、住宅地と分けるのは、以前の成長を目指すデザインの考え方であり、これからの人間中心の考え方ではない</p>

基本政策

	総合計画策定検討委員会	総合計画市民会議
<p>「市民生活における安全・快適さの実感」を重視した政策体系</p>	<p>安全・安心のまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キーワードとして安全・安心のまちづくりが抜けていて、まちづくりは、安全・安心があって機能していくということ。 ・ ニューヨーク市長の割れ窓理論が参考になるが、たまり場を放置することにより犯罪が発生する可能性があるため、小さいうちから芽を摘む必要があり、これは、市民一人一人の責任、分担に帰結する。 ・ 危機管理について、地域における行政の役割を明確にすることも必要だ。 	<p>道路は人のためであることを念頭においた、道路のつくり方が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人にとって安全、快適な生活道路にするという考え方により、防災インフラとして消防車が入れるような整備となる ・ 輸送と人が通るといふことのバランスが壊れており、棲み分けが必要 ・ 「歩行者のための道」。安全に快適に歩ける、遊べるくらいの道、車が遠慮して人が中心の道。現状がどうなっていて、それをいかにネットワーク化していくかが重要 ・ 「歩道があってこそ道路だ」という考えを通すことが重要 <p>自転車の有効活用を</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車や人を中心にしていく歩道、自転車で安全に行けるというデザインをすることで、環境に優しいまちになっていく ・ 交通は自転車や公共機関を利用できることが大切。人が歩いているところを安全にしたい ・ 環境が悪化しており、車量を減らすため、自転車を有効利用する。坂がない幸区、川崎区、中原区は自転車の有効利用を ・ 建物を建てる時に、最初から自転車が止まることを前提に、駐輪場の義務化を <p>職、住、遊、育、自然、文化などいろいろな生活機能が近接し、みんなが享受できる総合的なコミュニティデザインによるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産業も集まりも遊ぶところも、教育やコミュニティをさせる場所も、自然も歴史も文化も芸術も1つの近接したところで、みんなが享受できるようなまちづくりにする ・ 川崎区の40歳以下は別な場所に移り住みたいという願望が高い。川崎区は住みにくいという印象を払拭し、職住が接近し、女性も働けるような地域をつくっていく必要がある <p>機能別に工業地、商業地、住宅地と分けるのは、以前の成長を目指すデザインの考え方であり、これからの人間中心の考え方ではない</p>
<p>共に支える幸福な地域社会づくりをめざした政策体系</p>	<p>総合化、地域、共助、モデルアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉関連施策を地域のなかで、いかに総合化する仕掛けをつくるかということが課題。 ・ 地域福祉の総合化といっても、行政請け負いという形でやっていること自体の改革を伴わないと、新しい時代に対応した総合的な地域福祉計画はできない。 ・ 地域で解決するための最適な仕組みづくりがわからないので、区や区よりも小さな単位で発案し、後戻りもできるような気楽にやれるモデル事業が行えるような仕組みづくりも重要。 <p>市民の自助・共助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これからの福祉は、「地域」のなかでどうやって「自立」を支援していけるかが重要で、その自立が確保できるような仕組み・仕掛けをどう作り上げていくかが、大きな課題。 ・ 地域を軸にした社会福祉サービスの再構築は、行政サービスだけでなく、地域住民の協力・参加・パートナーシップが必要であり、併せて単なるサービスの受け手としてだけでなく、担い手になるような仕掛けが必要。 	<p>高齢者が積極的な役割を果たす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の中でボランティア活動 ・ 他世代との交流 ・ 街なかに老人施設 ・ 就業には生きがいの目的もある <p>高齢者の活躍をする場づくり、仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者は、自分のことを活用する場所がないし、分からない ・ シルバー活動の中からコミュニティビジネスが生まれる可能性 <p>高齢者は支えられる側だけでなく、支える側に回ることもできる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者と高齢者との交流 ・ 子どもと高齢者を並行して考える

策定検討委員会及び市民会議における意見要旨一覧

	総合計画策定検討委員会	総合計画市民会議
	<p>高齢者パワーの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者は財力や経験のある人が多いので、行政の行っていた部分を担ってもらうなど、もっと活用すべき。 ・ 高齢者支援は75歳以上とするという考え方もある。 ・ 今後は、公的サービスによりかかるのではなく、自分たちの力をどう出していけるか、リタイアされた方々や子育てが終わった人たちがどう関わっていけるかが重要。 <p>介護サービス、保育サービスへの民間事業者参入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護サービスは、民間事業者の参入が広がっているが、さらなる民間参入が検討されるべきではないか。 ・ 保育所への民間参入への規制緩和を行うと同時に、子育ての問題については、もっと多様な形での対応が必要である。 <p>福祉活動によるまちづくり・経済おこし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉が、まちづくりの重要な媒介になる。住民の協力・参加の促進などが地域づくりの重要な要素になってきた。さらに、福祉を通してビジネスが広がってくる可能性が多分に出てきている。 ・ 少子高齢化、ライフスタイルの多様化等において、ライフモビリティ、あるいは高齢者ケアというものが課題として打ち出されてきており、今後の方向でもこの辺が大変重要。 <p>セーフティネットの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ セーフティネットの確保は大事だが、特に気をつけておかなければならないのは、社会的に援護を必要とする人々に対するものであり、体系的に考える必要がある。 	<p>福祉課題が起こる前の健康づくりが重要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯現役大作戦 ・ 就業している高齢者は健康 <p>地域の中の福祉コミュニティを考え、それぞれが支えあう地域づくりを</p> <p>福祉は社会全体が受けるものであり、同時にするものであるという考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ DV、ひきこもり、虐待など、福祉専門家に任せるのではなく、「癒される地域社会」をいかに作るか。「福祉コミュニティ」「福祉社会」という概念が重要 ・ 自立した住民が地域で支えあい、癒しあうことが重要 ・ 「社会全体のレベルをあげる」のが福祉。すべての人が福祉を受ける場合もする場合もある <p>福祉を受ける人と与える人という区分はあたらしない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施し（要求）中心の福祉から参加の福祉へ ・ 高齢者でも、やりがいをもてる、役にたつことができる <p>専門家、ボランティアをネットワーク化する協働の仕組みが必要</p>
<p>人が暮らす「環境」にかかわる政策体系</p>	<p>重要なキーワードとして環境が抜けていて、少子高齢化と同様、地球温暖化も大きな課題。これからめざすのは「高成長」ではなく「安定した持続可能な経済」であり、地球環境時代を踏まえた産業構造に転換していく必要がある。</p> <p>都市農業・農地の再認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農地の公園化・緑地化というものが必要であるが、全部公園にすることはしない。園芸の支援というような形で緑化の1つの柱とすることは可能ではないか。 ・ 農地は、食糧生産の場だけでなく、環境・安全・防災対策の面からも再認識しなければならない。 <p>都市と自然が分離するのではなく、ビルや工場のまわりにも自然を配置するなど、いろんなものが融合していく考え方が必要ではないか。</p> <p>多摩川を活かす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多摩川はいい遊び場だったと思うが、多摩川のいいイメージを強く出していったらいいのではないだろうか。 ・ 徒歩の交通・粋な交通というのも考えられ、徒歩で渡れる橋や渡し舟のようなものがあるといいのではないか。 	<p>市全体は、臨海部は工場地帯、北部は自然が残る住宅地などと色分けし、また、川崎は海があるのに市民が遊べる海がない。海、川、山など全て含めてまちづくりを考える</p>
<p>川崎のポテンシャルを活かし伸ばす政策体系</p>	<p>重要なキーワードとして環境が抜けていて、少子高齢化と同様、地球温暖化も大きな課題。これからめざすのは「高成長」ではなく「安定した持続可能な経済」であり、地球環境時代を踏まえた産業構造に転換していく必要がある。</p> <p>川崎の産業を支える中小零細企業への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 約95%の企業がいわゆる中小零細企業という範疇に入るが、川崎の産業を支えているのがこうした存在でもあるので、生き残りをかけた難しい時代の対応が必要。 <p>中小企業等へのインセンティブ型の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業が伸びるのを上手く手助けすることで、前向きの人がいろいろ出てくるといい。 <p>研究開発/ソフトウェアの産業都市としての川崎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 良好な環境での研究開発都市としての川崎市というのも掲げてほしい。 ・ 東京の近くに立地しているという非常に大きなメリットを活かして、世界から優秀な頭脳が川崎に集積して、ソフトウェアの中核都市としていく視点が大切。 <p>商店街活性化の方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商店街の復活は現実としては難しい面があるが、文化とか観光などとリンクさせることが必要。 ・ まちの特徴というものがあるって、あるテーマをもってまちを開発していくと、観光的な側面ともリンクしていくのではないか。 <p>福祉活動によるまちづくり・経済おこし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉がまちづくりの重要な媒介になる。住民の協力・参加の促進など地域づくりの重要な要素になってきた。さらに、福祉を通してビジネスが広がってくる可能性が多分に出てきている。 ・ 少子高齢化、ライフスタイルの多様化等において、ライフモビリティ、あるいは高齢者ケアというものが課題として打ち出されてきており、今後の方向でもこの辺が大変重要だ。 <p>産業政策とまちづくりの連動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治体から見た産業政策というのは、まちづくりと都市計画が一体となって何かしていくというのが、効率性を損なうことなく的確に対応していく上で重要。 <p>一律的都市開発か拠点型都市開発か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 川崎の現状から考えると、特徴ある各拠点が関わり合いながら発展する複合型都市という選択しかないのではないか。 	<p>川崎のまち全体のありよう、自然はどうするのかなどについて、ハード、ソフトともに考えていくべき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経済活動は必要で、ビジョンをもった、まちの中の生活と経済活動との折り合いも考えることが必要

策定検討委員会及び市民会議における意見要旨一覧

	総合計画策定検討委員会	総合計画市民会議
	<p>ソフト重視のまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ハードの計画をつくるのも重要であるが、その場合には人のつながりなどソフトの面も重要。そうでないと従来型のハードのまちづくりとなら変わらないものになってしまう。効率的・効果的ということよりも、交流しあえるとか、潤える、ということの方がもっと重要である。 <p>南武線の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 南武線は、首都圏の放射状の交通路線と結節しているので、考えようによっては黄金の路線であるといえる。 南武線をそのまま京浜東北線に乗り入れて品川まで行くような路線ができると、川崎の集客力も高まり南北の交通も飛躍的に向上する。 <p>交通体系の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 時代の変化に応じて見直しを図ることが必要であれば、今きっちりした体系を考えておくことが必要。 <p>都市計画道路の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> 需要や財政状況が変化しているので、従前の道路計画の進捗率に固執するのではなく、必要性・緊急性などの視点による優先順位付けが大切で、時代状況に応じた道路体系の見直しが必要。 計画を決定したら、5年、長くても10年以内に確実につくるという、考え方の転換をしていく必要がある。 	
子育てや人が学び育つための政策体系	<p>子ども関連施策の総合化（教育・福祉の連携）</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの福祉をどう確保していくのかといった視点での総合化が必要。 川崎でも子ども関連の福祉・教育を一体化した総合的な課や窓口を考えるべき。 <p>多様なニーズと公平性に対応する保育のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育所を利用している人としていない人の費用負担には大きな差があり、公平性の観点から根本的に考える必要がある。 現在の制度の改革を徹底的に図らなければ、公平性の確保やニーズには応えられない。 <p>子育てと仕事が両立する環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育てをしながら働き、暮らしやすい川崎市ということも目標にしたいことの1つ。 <p>教育に地域の力を活かす</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育について、もっと市民の知恵や人材を利用しながら進めていってよいのではないか。 子ども一人一人の多様性を活かす努力を地域の支援を得ながら進めるべき。 <p>しっかりとした学校教育、基礎教育の重要性</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎教育が充実していれば、それは市として大きな魅力ではないか。 今は家庭の教育分野まで学校が負わされており、学校での本来の学習が十分にできる状態ではないので、その現状を踏まえて、いろいろ政策を考えたい。 <p>人権・多文化共生のまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎は公害のまちではなく、多文化のまち、にぎやかなまち、雑然としているけれど居心地のいいまちというイメージをもっと膨らませた方がいい。 「人権」のキーワードが不足している。26,000人の外国人を含め、それぞれが自分らしく生きていく土壌が必要。 学校教育のあとも生涯学習を通じて人と人の関わりを学ぶ必要がある。 	<p>子育て関係施設の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの施設、老人いこいの家と一緒にしてつくっては こども文化センターや高齢者施設など市施設については世代間交流が行われていないし、利用されていない 施設の一体的活用について 実態はプログラムや指導者が不足している <p>子どもの居場所づくり（高齢者との交流）</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中学校の空き教室などを活用した居場所づくり 里山、多摩川河川敷や市民健康の森など様々な自然の場を使って、居場所、活動、学習の場づくりにより、老人と子どもが交流を図る <p>子育てに関する地域での行動、コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 親同士のコミュニケーションだけでなく、社会全体で対応していくことが必要 <p>子どもの意見表明の保障</p> <p>子育ての総合化</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育と教育の一体化の推進 担当部局、相談窓口を含めて総合化する必要がある <p>教育の場へ、父親、男性、地域ボランティアが、もっと参画する</p> <ul style="list-style-type: none"> 男性が学校（PTA）に参画するための方策（土曜日の会合、参加義務化） <p>失われている子どもたちのマナー、常識を地域の中で、教える場が必要</p> <p>子どもは地域の子、社会の子。親だけでなく地域の皆が子育てを支援しよう</p> <p>家庭教育、家庭の責任の見直し</p> <p>若者への対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 親の責任も大きく、家族の考え方や価値観を見直していくことも必要 家庭内で職業観を見せていく必要。 若者に意欲と夢を持たせる方策 いじめ、ひきこもり、虐待、不登校への対策 <p>学校教育・社会教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育委員会は教育現場から遠い存在になっている。教育委員会の役割等を見直すべき 生涯学習は位置づけが漠然としている。市民館など社会教育施設を中核としたネットワークを構築し、学んでいく場を提供していくことが重要 学校教育に地域社会の教育力を合体させることが必要。学校教育の中で地域とのつながりをうまく取り入れることができる仕組みが必要 <p>地域の中での多文化の共生</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会のグローバル化に向けた生涯学習とは別の意味での地域の中での国際化多文化への対応の方策 <p>生涯学習により福祉コミュニティづくりを啓発、学んでいく仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者対策でなく、これからは、働く人のための生涯学習が重要 予防福祉へ対応 生涯学習は定年後のものとしてされるが、0歳から死ぬまでの終わることのない教育

策定検討委員会及び市民会議における意見要旨一覧

	総合計画策定検討委員会	総合計画市民会議
個性を活かす取組を進め地域の魅力を育てる政策体系	<p>区への分権</p> <ul style="list-style-type: none"> 区ごとに特性が違うという点を踏まえ、区への分権を考えていく必要がある。 区ごとに税金の受益と負担とを関係させていくことは難しいが、一方で区民の意向に沿った計画・事業をやらなければいけない側面もある。 <p>分権型社会では行政から市民への大胆な権限移譲が必要。</p> <p>文化芸術施策</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館のような公共施設は、ある程度特色があってもよく、廃刊になった雑誌のバックナンバーが、川崎に行くところというような、ユニークなサービスで文化施設の差異化を図っては。 文化行政というのは市民のところを下りてくるのではなくて、市民と一緒に、市民をリードしていくものだ。 <p>市民による地域コミュニティの活性化、地域意識の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自分たちのまちは自分たちで守る」あるいは、「子どもたちや高齢者を守っていく」という意識・自覚を持つことが必要。 <p>安全・安心に豊かに老後暮らしをしていく、子どもたちにふるさととして残していくという感覚は、市民一人一人の活動から生れるもの。</p> <p>地域活動のベースとして、町内会に根強いものがあるなかで、町内会の何かをきっかけにもう少し緩やかに好きなもの同士が気楽に集まるような、そういう仕組みづくりができないものか。</p> <p>多摩川や南武線を都市構造の基軸の一つに位置づけるなど、地域資源や産業拠点を生かした川崎らしさの発揮と市域の一体性や自立性の醸成などを充実させるべき。</p>	<p>まちづくりは、ハードの前に人づくりからはじまる。まず、みんなでよく話し合いをして、それぞれまちづくりに参加する</p> <ul style="list-style-type: none"> ハード面が立ちふさがって、ソフト面のバリアフリーを阻害しているのではないかと。ノーマライゼーションは必ずしもハードだけでは解決できない。人が援助する、自然に援助できるような社会にしていきたい 川崎は東西に長く、課題がそれぞれの地域によって違う。地域ごとの課題を住民が話し合っってコミュニケーションを持ってやっていくという方法論が必要 <p>子どもも大人も高齢者も、あるいはいろいろな多様な人たちが、それぞれ居場所があるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども、大人、高齢者の居場所がない 一方使われていない場所（公民館、公園など）がある <p style="text-align: center;">↓</p> <p>ストックインフラ（既存の公共施設）の有効利用、機能の複合化、共有化による居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しい施設の整備は不可能であり、学校は近隣のコミュニティ施設として、高齢者の憩いの施設にもなる 身近に小さな公園があるが、使われていない。大きな大人が楽しめる公園ができるといい 小中学校の統廃合により空き教室や運動場が有効活用できる 学校、幼稚園、環境教育なども包括的に考えて、子どもが自由に遊べるようにしていく必要がある <p>住民が生活していく生活圏、自分たちが自治をする範囲によるまちづくりの考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民が自分で生活していく生活圏、町内会や小学校区かも知れないが、自分たちが自治をするような範囲、自分たちが手を出す範囲というのは住民が決めていき、例えば町内会の次は区ではなくて、段階的に大きくなっていく考えをしていきたいということでコンパクトシティというキーワード <p>参加意識を高める必要</p> <ul style="list-style-type: none"> 働いている人の参画意識を高めることが、これからの自治の基本 町内会への参画を高める仕組みづくり 参画の自覚が大事であり、行政の意思決定の説明責任を果たし、市民意識をレベルアップする仕掛けが必要 <p>住民同士の意見調整、話し合いのルール、プロセスが必要</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の利害調整も自治の役割 まずは時間をかけて議論する。知らなかったことを知る機会、新しいアイデアが出る機会を確保し、折り合いをつけるプロセスが必要。様々な情報や専門家の意見を聞くことも必要 <p>情報公開が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報公開を早い時点で行い、自治に結び付けていくことがポイント <p>情報、教育、人材、資金をサポートする中間組織、グループ組織のネットワーク化が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> 中間組織がもっと強気に、様々なかたちで出てこないとも市民参加というものが具体性をもたない 市民活動支援センターも、各区に、もっと機能的に整備されるべきである グループは単体では力になりにくいので、ネットワークにより、市民参加の力になっていく <p>意見集約の仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 町内会、テーマ・コミュニティ等を活用、活性化して、問題解決のための疑問や意見の集約をする。市民行政間の意見交換や合議の機会をつくる。決定の理由説明を明確にしていくなどのプロセスを経ることにより解決に向かう <p>計画作りだけでなく、公の施設の管理面などでも市民参加を進めて行く必要がある</p> <p>自治における地域は、どのような単位で考えていくかが重要</p> <ul style="list-style-type: none"> 小さな地域の話しを全市の議場では議論できない。区の自治が重要 個々の町会の次は、いきなり区レベルの町会連合会ではなく、数エリアの町会が集まって議論するといった仕組みが必要 各区の予算編成も、市民活動からのアイデアから予算がつくような方法も必要 区が予算面も実行力をもつべき 区議会の設置や区長公選など区の自治の強化 <p>ボランティアをする人たち、ボランティアをしていない市民の情報交換の場、市民同士の共通理念をつくる場が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民活動センターは、今は活動している人しか対象になっていない。一般の生活する市民と、センターを結びつけることが重要 <p>川崎のまち全体のありよう、自然はどうするのかなどについて、ハード、ソフトともに考えていくべき</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の住んでいる地域をどうしたいかについて意見を出し合い、それが尊重される市民参加のまちづくり まちづくり条例

策定検討委員会及び市民会議における意見要旨一覧

	総合計画策定検討委員会	総合計画市民会議
		<p>まちづくり、ひとづくりには、まず人材を育成していかなければいけない。まちづくりは、そこに住んでいる人たちのつながりや連帯が重要。ヒューマンウェアが重要。そこに住む人々の連帯感や信頼関係の構築、社会的規範の高さなどが、地域社会の力を育み、暮らしやすさ、住みやすさの指標になる。これからのまちづくりには、このようなソーシャルキャピタル（社会関係資本）こそが重要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 要求から参加へ、受ける時代から、お互いを助け合う時代へ 川崎ならではのまちづくりのため、人のつながりを資本として評価していく視点で行っていく ・ まちづくりでもそうだが、ああしてほしい、こうしてほしいと行政に言うだけでなく、まず、市民がみずから自分でできることは、やっ払いこうという気持ちが大事 <p>自治とは何か、住民参加の必要性・動機は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民意識の高まりに伴う、行政には見えないところの提案 ・ 納得性を高める <p>解決策の実行を評価する方法が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ その評価は、問題は解決したか、社会がどう変わったか、成果が見えるもの・見えないものがどのようになっているか。そして必ずフィードバックする。評価の際には、実行の主体と評価主体が誰だったのかを明確にしないとうまくいかない